

## 令和3年 年頭のごあいさつ

市民の皆様、明けましておめでとうございます。令和3年の輝かしい新春をすこやかに希望に満ちてお迎えになられたことと思います。謹んで皆様にお慶びを申し上げます。

しかしながら、例年とは違う思いやスタイルで新年を迎えられたことと存じます。新型コロナウイルス感染症は、依然として世界各地で猛威を振るっており、国内においては「第3波」のただ中にあり、御家族や御親戚の皆様の里帰りも躊躇される状況であったかと思えます。

残念なことではありますが、市民の皆様には、生活リズムを整える、きちんと食事をとって体力をつけ、従来からの「マスクの着用、手洗いの徹底、3密の回避」など、新しい生活様式の徹底を引き続き、お願いいたします。

さて、昨年の12月5日から、市長として2期目をスタートしております。平成28年12月市長就任以来、市民の皆様を始め、市議会議員の皆様方の御支援と御協力に対し、深く感謝申し上げます。と共に災害対応やコロナ対策、市民の皆様の日常生活を支えるため、日々努力してくれている全職員の頑張りに感謝をしております。

新生江田島市、誕生から17年目を迎えております。平成12年4月の「江能四町合併推進室」設置から、20年の時を経て、本市誕生から今日までの歩みを振り返りますと、多くの先輩の方々の御苦勞の上に、現在の江田島市があること、あらためて感慨を新たにすることがございます。

初代、曾根薫市長におかれましては、平成12年から4年間にわたる四町合併の協議の中で、市民の皆様の中に生じた市政施行へのわだかまりを、一つ一つ、丁寧に解きほぐされ、1市4制度の解消を図り、「四町融和」などに意を尽くされました。

第2代、田中達美市長におかれましては、第2次総合計画に掲げられた協働のまちづくりを強く推進され、合併当初からの懸案事項でありました「庁舎問題」の解決に際し、「分庁方式」を決断され、「4町の均衡ある発展」などに意を尽くされました。

江田島市の課題は、人口減少に如何に対応していくかであります。戦後初めての国勢調査、昭和22年63,560人をピークに73年間、江田島市の人口は減り続けております。今後も、人口は減少傾向のまま推移し、令和6年度には市町村合併による有利な起債制度（合併特例債）が終了することが見込まれております。

これからの4年間は、市の経営状況が厳しさを増す中であって、私たちの子や孫、その先の将来を担う世代のため、持続可能で、明るい未来を描くことが可能な江田島市を築くという大変重要な期間となります。市政運営の持続性を確保するためにも、今後、市民の皆様にも痛みを伴う改革について御理解を賜る必要も生じてくるやもしれません。

私は、この故郷江田島市を心から愛しております。先人がつくり上げてくれた今の江田島市、我々を育ててくれた自然や伝統、文化など、豊かな個性を再発見し、市民の皆様に誇りを持っていただける江田島市を築き、共に歩むことが市長の使命であると考えております。

江田島市の豊かさを次の世代に託すことができるよう、全力を尽くしてまいります。